

We will make a fresh step everyday.

〈にっしん〉 35周年 そして創業90年へ!

最新の決算ミニガイド

平成22年5月




彫画:伊藤 太一

あなたのそばで
明日を奏でる。

 **日新信用金庫**

〒673-0892 明石市本町2-3-20

ももしこーる イコー ニッシンバンク

 **0120-15-2489**

(受付時間 平日午前9時から午後5時まで)

FAX 078-912-4589

<http://www.nisshin-shinkin.co.jp/>

平成22年4月1日、〈にっしん〉は35周年を迎えました

そして、〈にっしん〉の母体である明石信用金庫は、大正10年(1921年)2月に設立されていますので、来年2月には創業90年を迎えます。90年の歴史は、兵庫県下金融機関の中でも有数のものであります。それを記念しまして、今回のミニガイドは過去10年の歩みをまとめてみました。



10年を振り返りますと

前半、預貸金は伸び悩みましたが、後半はめざましい伸びとなりました。平成22年3月末現在、当庫の預金量は全国272信用金庫中47番目に位置しています。

収益を見ますと、一般企業の売上げに当たる業務収益は、預貸金の推移とほぼ平行して前半減少したのち平成18年3月末を底に後半一貫して増加しております。しかし、不良債権処理費用が25億円ラインを超えた年は税引後純損失の計上を余儀なくされております。

不良債権の額及び不良債権比率を見ますと、多額の不良債権処理費用を計上した年を含めて、ほぼ順調に減少しております。そして不良債権に対する引当等も一貫して十分に行われております。

有価証券の期末評価損益は、長期金利が極端に低下した平成15年度における投資が重圧となって、その時点を境に評価損の計上が続きました。その間、ポートフォリオの改善に営々と努めた結果、前年度末には7年振りに評価益を計上することができました。

自己資本の額は、一進一退で伸び悩んでいます。信用金庫には増資という資本増強の手法がなくまた当庫は優先出資の発行も行っていないことから、自己資本の増加は基本的には毎年度の利益の積上げによるほかなく、これが伸び悩みの原因となっています。ただ、自己資本の内訳を見ると、ほとんどが基本的項目であり繰延税金資産もわずかで、良質な資本で構成されているといえます。

自己資本比率(自己資本の額/リスクアセット)は前年度末現在10%台を維持しており、その水準に問題はありません。しかし、自己資本比率の推移を見ると緩やかに低下しています。この推移は預貸金の伸びに反比例しています。預貸金が拡大するとそれだけリスク資産も増加するためです。自己資本の額が伸び悩むなかでは、預貸金の拡大に一定の限界があることは確かであります。

平成22年3月期は、誠に申し訳ないことでありますが、赤字決算となりました。

直接の原因は、不良債権処理費用がかさんだことで、20年度を更に7億円超上回りました。ただ、20年度は不良債権処理費用のほかに6億円超の有価証券売却損があったのに対して、21年度にこういう損失はありません。このため、不良債権処理費用を計上した結果の赤字は20年度とほぼ同水準であります。21年度は、このほかに、会計上次の2つの損失処理をした結果、最終の税引後損失は30億9千7百万円に拡大しました。

第1に支店の土地建物について、簿価に対して評価額が大きく低下しているところの簿価を引き下げること約5億円の損失処理を、第2に繰延税金資産^(注)について、20年度末は26億円計上していたのを21年度末には3億円にまで減額することで15億円の損失処理を、それぞれ行いました。

(注)金融機関は、不良債権を前倒しで会計上処理する結果、不良債権の償却・引当の多くを有税で処理しています。そして、競売・清算等により不良債権を実際に最終処理した年度で、過去に有税処理した分を無税処理します。つまり、この時点で過去に有税処理した償却・引当等の額にかかる税相当分が戻ってきます。

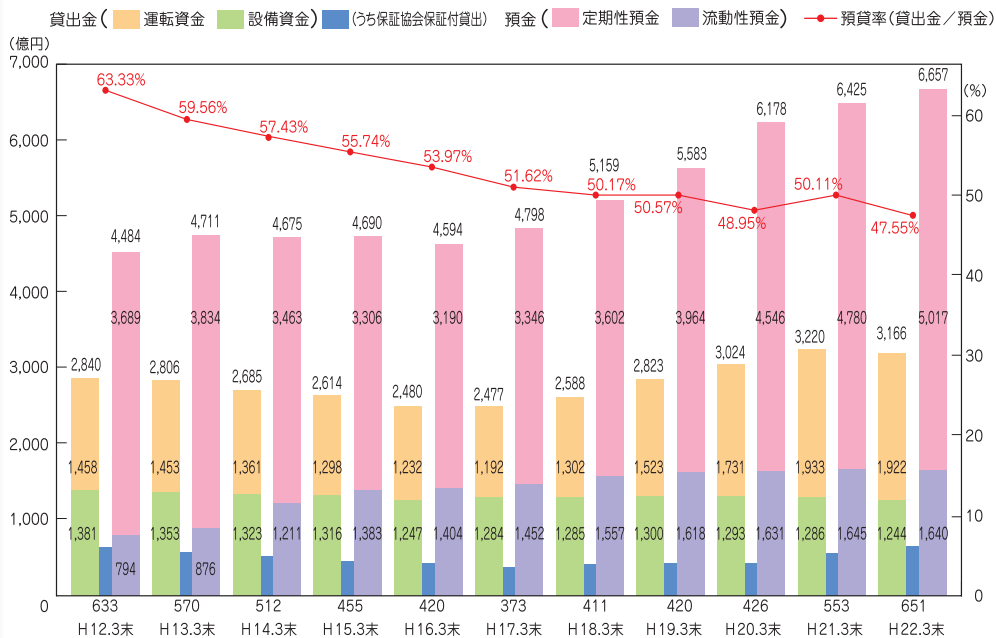
こうした事情を踏まえて、有税処理した償却・引当額の税相当分のうちの更に一定範囲(収益力に応じて)を、資産性ありとして、繰延税金資産に計上することが会計上認められています。

今しばらく推移を見守っていただくようお願い申し上げます。

新たな不良債権の発生を防ぐとともに不良債権が発生した場合もそれによる損失をできる限り少なくすることを目指して、昨年度来各般の対策を強力に講じてきました。しかし即効性がないのが実情であります。現在、更に幅広い対策をたて、それに全力を挙げて取り組んでいます。

ゆるやかながらもその効果は着実に現れてくるものと確信しております。どうか、今しばらく推移を見守っていただきますようお願い申し上げます。

〈貸出金と預金〉



貸出金は、平成11年3月末に2,927億円とピーク(期末ベース)をつけたのち、平成17年3月末の2,477億円(ピーク時の85%)まで6年間減少を続けました。その後増加に転じ、平成19年12月に過去のピークを更新して3,000億円台に乗り平成21年3月末まで順調に増加しました。しかし、平成22年3月末は一転減少に転じています。内訳を見ると、設備資金は10年前よりも減少しており、またここ2年は保証協会保証付融資が増加しています。

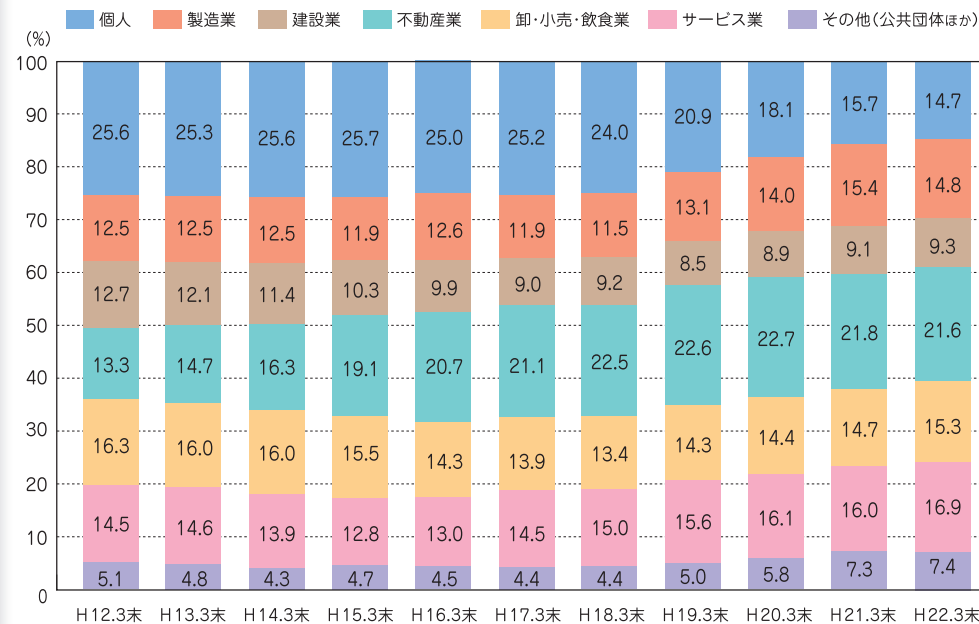
預金は、前半5年間は一進一退を繰り返しましたが、平成17年3月末以来好調な伸びを示しています。とりわけ平成20年3月末の伸び率(10.6%)は全国281信用金庫中第1位でした。

この間、平成17年8月末に預金量で県下11信用金庫中第5位に、また平成19年12月末に同第4位になりました。

また、平成22年3月末現在、預金量は全国272信用金庫中第47位であります。



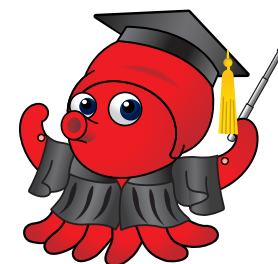
〈貸出金の業種別構成〉



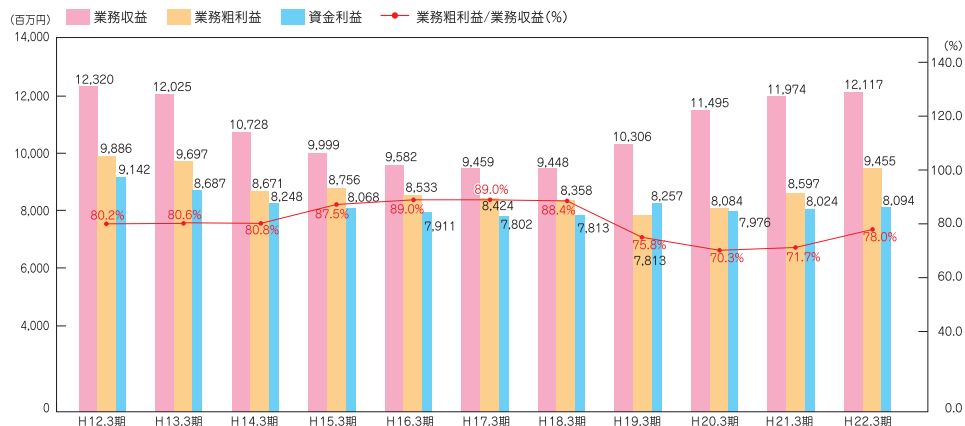
貸出金の業種別構成は社会経済情勢等を反映して大きく変化しています。最も目立つのは平成19年3月末以来の個人(住宅ローンと考えてください。)の減少です。住宅ローンにかかる営業態勢を立て直すとともに魅力ある商品を開発することが急務となっています。

製造業は平成19年3月末から増加しましたが平成22年3月末はやや減少しています。建設業は平成17年3月末まで減少しましたがその後は落ち着いています。

不動産業は平成18年3月末まで増加しましたがその後は落ち着いています。サービス業は医療・高齢者サービスの増加などから平成16年3月末以来ほぼ一貫して増加しています。その他が平成19年3月末から毎年増加しているのは公共団体向け貸出金の増加によるものです。



〈 業務収益、業務粗利益(うち資金利益) 〉



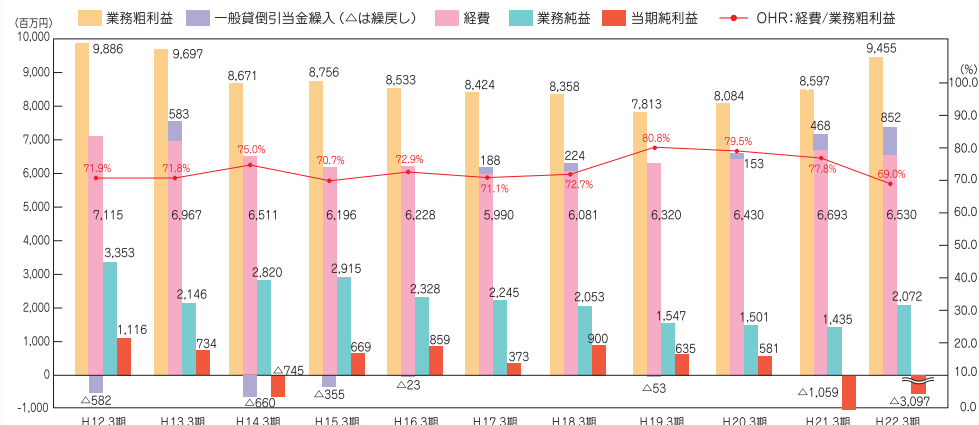
一般企業の売上に当たる業務収益(貸出金利息収入、余資運用収入、役員取引収入等)は、貸出金の推移に1年遅れる形で、平成18年3月期に底を打った後増加に転じています。

しかし、未だ平成12年3月期よりも低い水準ですが、これは金利の低下が主たる原因です。

売上から原価を引いた業務粗利益は、平成19年3月期まで基調として低下を続け、その後回復していますが依然として平成13年3月期に比べて低い状態にあります。

また、銀行の中核的業務から得られる資金利益(貸出金と余資運用から発生する利益—預金支払利息)は、預貸金利鞘が縮小する中で、この10年間を見ると水準を落としてきています。

〈 業務粗利益-(一般貸倒引当金繰入+経費)=業務純益、当期純利益 〉



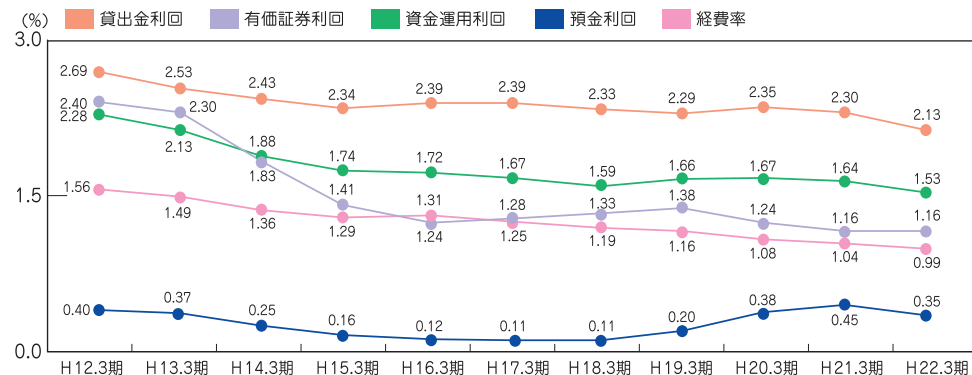
経費は水準を落としてきています。平成19年3月期以後やや増加していますが、これは預金の増加に伴う預金保険料の増加等経費増大圧力がかかっているためです。

また、一般貸倒引当金がこの2年間増加しているのは自己査定上の正常先が突然に経営破綻を起こす例が増加しているためです。

業務純益は10年のうちでは前半に比べ後半が水準を落としています。収益力が低下しています。そうした中、平成22年3月期の業務純益は2,072百万円と過去5年間の最高をつけました。

しかし、不良債権処理費用が多額に上ったことに加えて、会計上2,067百万円の損失処理を行った(①支店の土地建物について553百万円の減損処理を行いました。②繰延税金資産の計上を350百万円にとどめ1,514百万円の損失処理を行いました。)結果、3,097百万円の当期純損失を計上することとなりました。

〈 貸出金利回、有価証券利回、資金運用利回、預金利回、経費率 〉

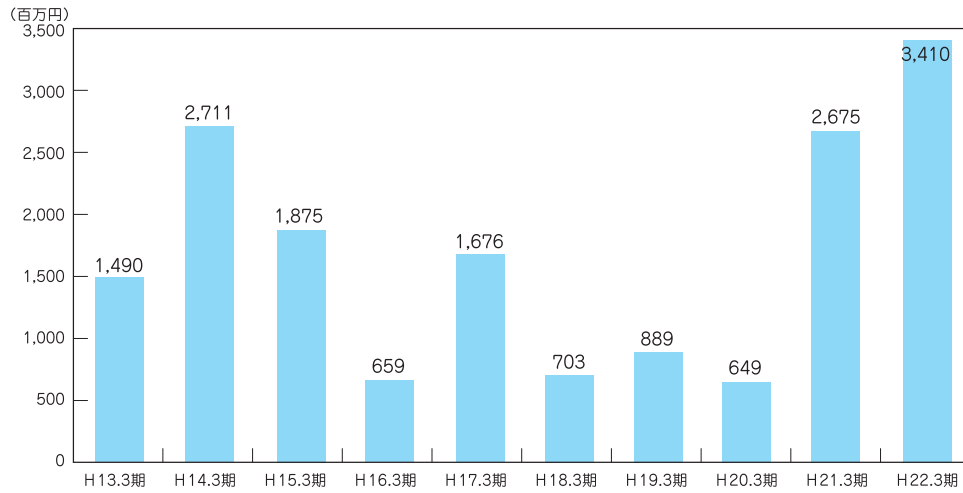


貸出金利回はほぼ一貫して低下しております。有価証券利回も10年間で大幅に低下しております。全体の運用利回は平成19年3月期と平成20年3月期に若干上昇しましたが、平成22年3月期は10年間の最低となっています。

他方、預金利回は平成17年3月期及び平成18年3月期を底に上昇しています。

この間、経費率は一貫して低下し、平成22年3月期はついに1%を割るところまで下がりました。

〈不良債権処理費用〉

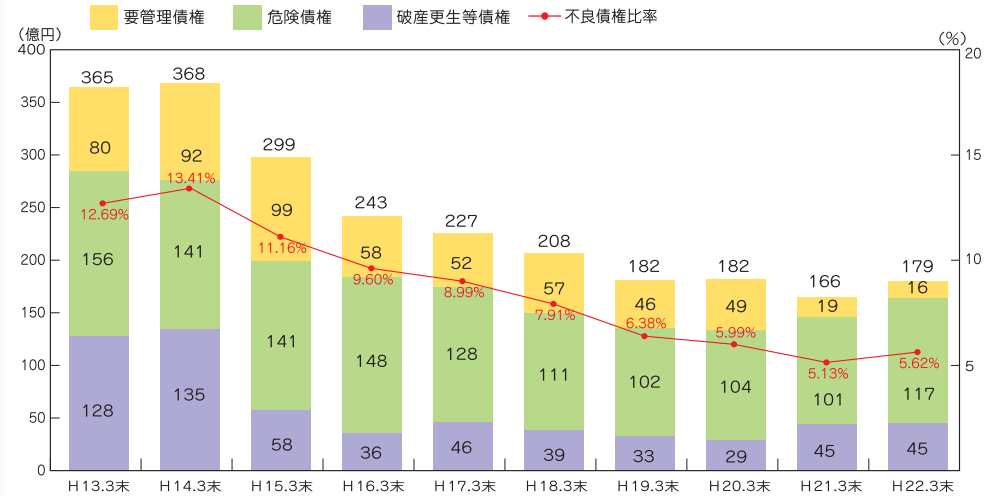


不良債権処理費用とは、その年度における債権償却額や貸倒引当金繰入額等の合計です。不良債権処理の多くは、担保処分や清算等の処理を待たずに前倒しで会計処理しており、税法上は有税処理となっています。10年間の推移を見ると、平成18年3月期から平成20年3月期にかけて一旦落ち着いていたものがここ2年急増しています。この費用を抑制することが収益上最大の課題であります。

不良債権処理費用を抑えるためには、不良債権の発生を防止し、また不良債権化した場合にできるだけ回収をはかり金庫の損失を少なくしなければなりません。

このため融資審査能力、融資先管理能力、資金管理能力、交渉能力等を総合的に向上させるべく、実務上さまざまな工夫に全力で取り組んでいます。

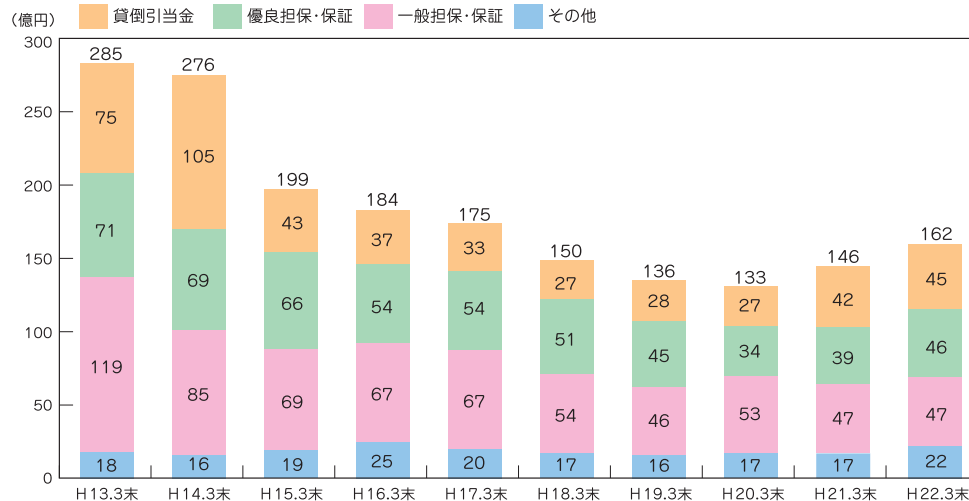
〈不良債権(金融再生法開示債権)と不良債権比率〉



不良債権の額と不良債権比率は、平成22年3月末において対前年比わずかながら増加しましたが、これを除くと一貫して大幅に減少してきています。不良債権の処理は順調に進んでいます。



〈不良債権(要管理債権を除く)の保全状況〉



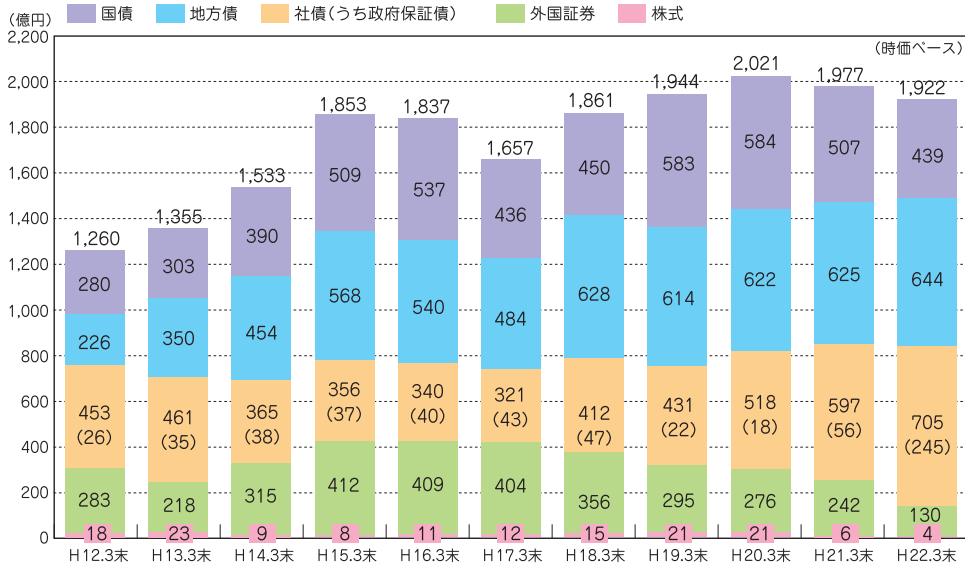
不良債権で要管理債権以外のものについては、個々の債権ごとに貸倒引当金を計算して計上することになっています。これが個別貸倒引当金です(注)。

(注)これに対して正常債権、及び不良債権のうちの要管理債権については、債権全体に対して一定の率で引当金を積み立てています。これが一般貸倒引当金です。

平成22年3月末現在、不良債権で要管理債権以外のものは162億円あります。これに対して、

- ① 個別貸倒引当金を45億円積んでいますから、会計上45億円は損失処理済みです。
- ② 優良担保・保証(例えば保証協会保証)の46億円、及び一般担保(例えば土地)・保証の47億円、合わせて93億円は、担保処分等により回収が可能と見込んでいます。
- ③ 残りの22億円は保全されていませんが、債務者にそれだけの返済能力はあると考えています。

〈有価証券の種類別残高〉

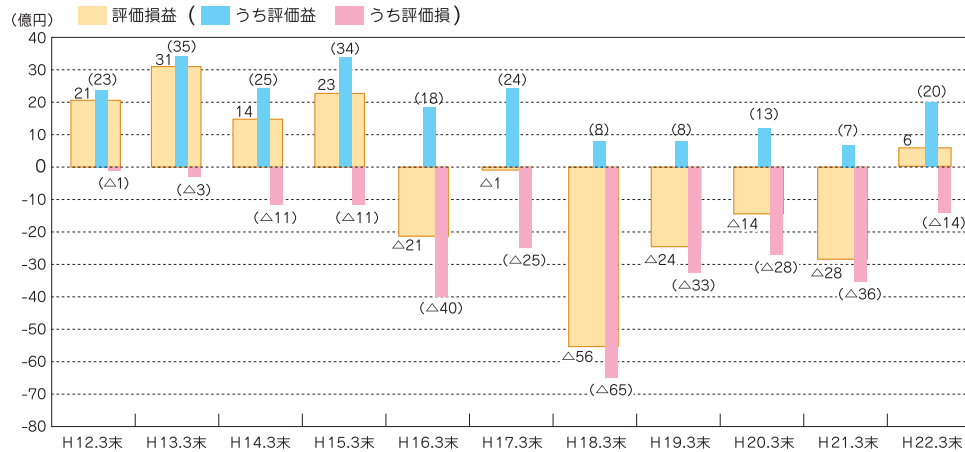


余資運用のうち有価証券への運用状況を3月末ベースで示したグラフです。有価証券運用の総額はここ4年ほど2,000億円前後で推移しています。

リスクの高い有価証券への新規投資は行わず、また保有している有価証券のうち比較的风险の高いものは市場の動向を見ながら処分を行ってきています。

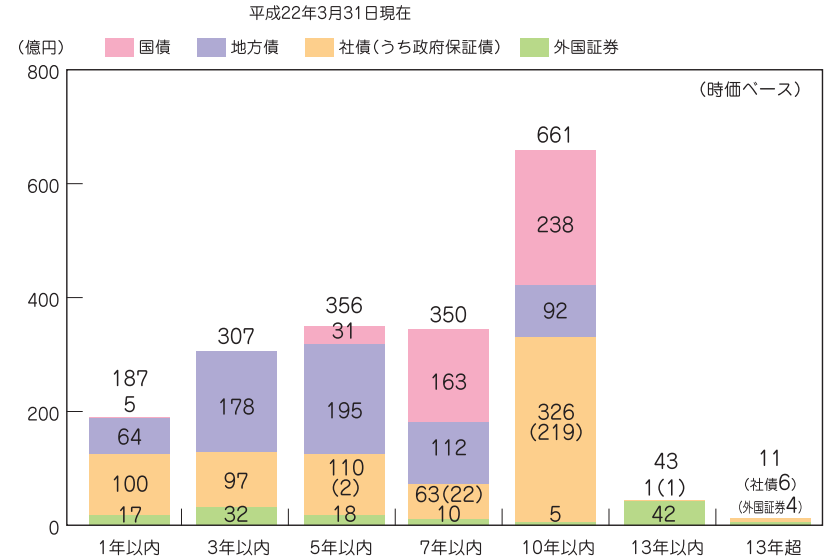
この結果、株式や外国証券への運用額は低下しています。社債も多くは政府保証債です。

〈有価証券の年度末評価損益〉



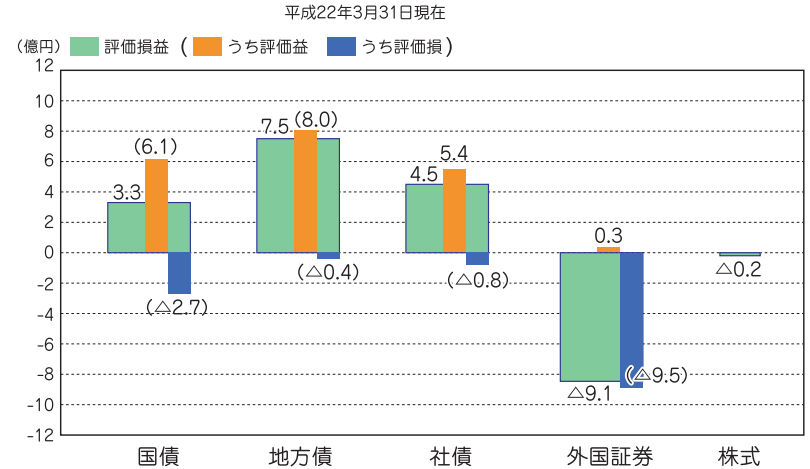
平成22年3月末において有価証券は7年ぶりに評価益を計上することができました。有価証券の評価損益はその時点の市場の動向に大きく左右されますが、長期金利が極端に低下した平成15年当時の投資の重圧からようやく脱却しつつあるとも言えます。

〈債券の償還までの期間別残高〉

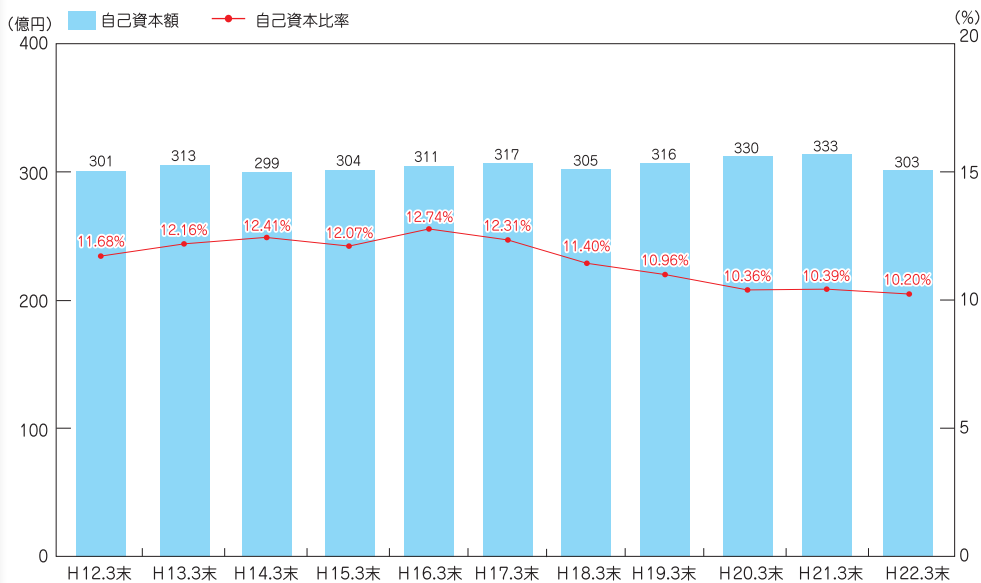


有価証券のうち債券について、その償還までの期間別に残高を示したグラフです。10年を超える長期投資は、リスクが高いと考えここ数年来新規には行っていません。

〈有価証券の種類別の評価損益〉



〈自己資本と自己資本比率〉



(億円)

	H12.3末	H13.3末	H14.3末	H15.3末	H16.3末	H17.3末	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末
繰延税金資産	17	7	15	19	22	18	32	28	23	26	3

(億円)

	H12.3末	H13.3末	H14.3末	H15.3末	H16.3末	H17.3末	H18.3末	H19.3末	H20.3末	H21.3末	H22.3末
リスクアセット	2,576	2,574	2,408	2,519	2,444	2,573	2,676	2,883	3,185	3,210	2,976
貸出金	2,840	2,806	2,685	2,614	2,480	2,477	2,588	2,823	3,024	3,220	3,166

自己資本の額はここ10年、一進一退で増加していません。利益の積み上げが進んでいないためです。

他方、リスクアセットは貸出金の増加等業容の伸びによって増加しています。

その結果、自己資本比率(自己資本の額/リスクアセット)は緩やかに低下しています。しかし、現状10%台を維持しており、水準に問題はありません。

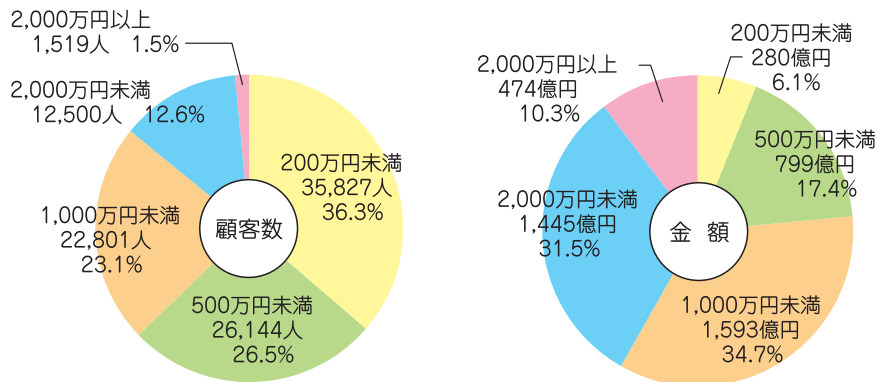
10年の歩み

- 平成13年 6月 舞子支店移転
- 平成14年 5月 神栄信用金庫の事業譲渡を受け、神栄支店開設
11月 生命保険窓販開始
- 平成15年 3月 個人向け国債の取扱開始
- 平成16年 1月 インターネットバンキング取扱開始
11月 玉津支店新築移転
- 平成17年 3月~8月 30周年謝恩定期取扱(大好評)
5月 大久保支店改装
6月 本店駐車場拡張
 / 預金残高5,000億円達成
8月 預金量県下信用金庫中第5位となる
9月 融資商品「スターと☆」取扱開始(話題を呼ぶ)
12月 3年間使用のないキャッシュカードの無効化開始
- 平成18年 3月 「タコちゃん定期」取扱開始(人気のキャラクター登場)
 / 本店大会議室ほか改装
5月 兵庫支店新築移転
7月 積立定期預金「タコちゃん大きくなあれ」取扱開始(ロングセラー)
12月 当庫キャッシュカードによる当庫ATM利用手数料を完全無料化
- 平成19年 2月 推測されやすい暗証番号一掃キャンペーン開始
3月 融資商品「低利一直線」取扱開始(一直線シリーズの始まり)
7月 土曜預金営業を初めて実施
 / 他行ATM利用手数料の還元開始
11月 本部に事務指導部を新設
12月 三木支店新築移転
 / 貸出金3,000億円を突破
 / 預金量県下信用金庫中第4位となる
- 平成20年 3月 平成19年度における預金増加率(10.9%)全国信金第1位
 貸出金増加率(7.1%)同第5位
6月 クールビズを初めて導入
11月 預金量6,500億円達成
- 平成21年 1月 ATM営業時間を全店統一
6月 本部事務センターをシステム部に改組
12月 預貸金合計1兆円を突破
- 平成22年 1月 自営オンライン30年
5月 住宅ローンセンター開設

預金者のプロフィール

〈個人定期預金の残高階層別に見た顧客数と金額〉

(平成22年3月31日現在)



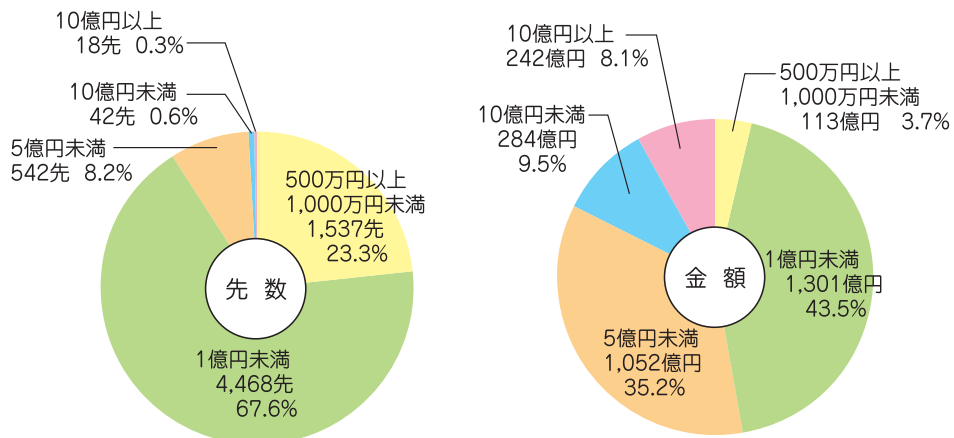
今どれくらい預金をお持ちであるかは別として、将来のために計画的にお金を貯めていこうとされる方に、有利で手軽で安心な預金を提供することを、〈にっしん〉は第一に心がけています。

貸出先のプロフィール

〈貸出金の残高階層別に見た先数と金額〉

残高500万円以上を対象に作成しています。

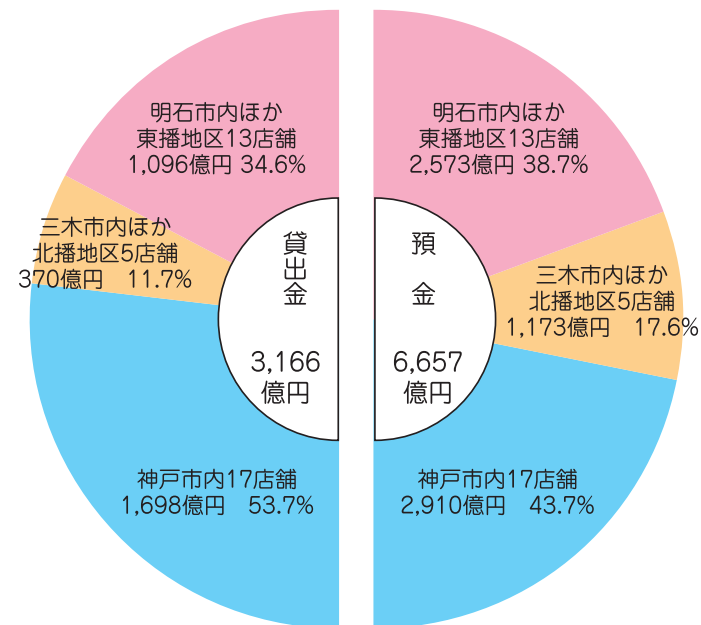
(平成22年3月31日現在)



貸出金残高1億円未満が先数で91%、金額で47%となっています。1グループに対する貸出金は20億円を上限(目安)としています。

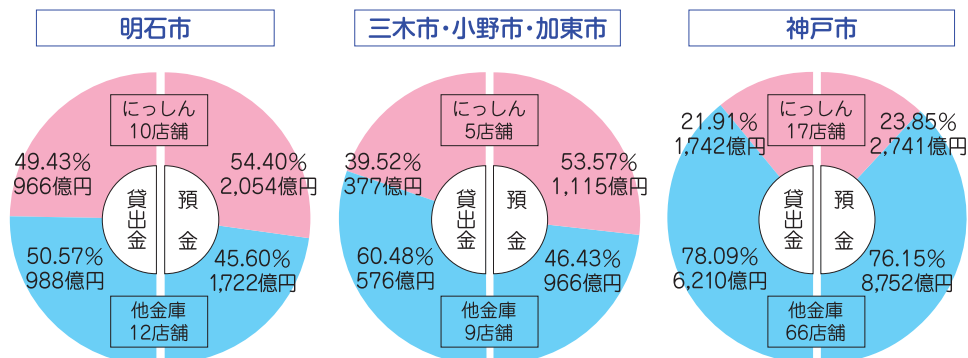
〈貸出金・預金の地域別構成〉

(平成22年3月31日現在)



〈信用金庫の中での〈にっしん〉のシェア〉

(平成21年9月30日現在)



店 舗 一 覧

明石市中央部

本店営業部	明石市本町2-3-20	078(912)4567
明石駅前支店	明石市本町1-1-32	078(911)8181
人丸支店	明石市大蔵天神町4-7	078(912)0337
林崎支店	明石市林崎町1-4-20	078(922)7431

明石市西部

西明石支店	明石市西明石南町2-14-7	078(923)1101
市場支店	明石市藤江2029-1	078(921)3020
大久保支店	明石市大久保町大窪277-1	078(936)2165
江井ヶ島支店	明石市大久保町江井島739-3	078(946)0623
魚住支店	明石市魚住町錦が丘1-12-1	078(947)6799
二見支店	明石市二見町東二見887-1	078(942)1221

加古川市・高砂市・播磨町

加古川支店	加古川市加古川町寺家町311-3	079(422)6066
宝殿支店	高砂市神爪1-10-2	079(432)8711
本荘支店	加古郡播磨町南野添1-2-1	079(435)3270

三木市・小野市・加東市

三木支店	三木市大村63-9	0794(82)5211
緑が丘支店	三木市緑が丘町東2-9-1	0794(84)1231
小野支店	小野市上本町237-2	0794(63)1135
天神支店	加東市天神492	0795(47)1011
滝野支店	加東市上滝野2413	0795(48)2010

神戸市東部

本山支店	神戸市東灘区田中町3-3-3	078(431)1061
魚崎支店	神戸市東灘区魚崎南町7-7-6	078(411)3281
六甲支店	神戸市灘区桜口町3-1-1-107	078(841)0141
西灘支店	神戸市灘区岸地通4-4-15	078(802)1431

神戸市中央部

神戸支店	神戸市中央区小野柄通5-1-16	078(231)2731
神栄支店	神戸市中央区下山手通3-1-13	078(391)0222
宇治川支店	神戸市中央区北長狭通7-3-5	078(341)4502
兵庫支店	神戸市兵庫区浜崎通3-22	078(671)3443
平野支店	神戸市兵庫区上祇園町4-4	078(361)0411
板宿支店	神戸市須磨区前池町3-4-1	078(735)6001

神戸市北部

鈴蘭台支店	神戸市北区鈴蘭台北町1-9-20	078(591)1221
ひよどり台支店	神戸市北区ひよどり台2-1-2	078(743)1621
藤原台支店	神戸市北区有野中町1-9-14	078(982)2489

神戸市西部

垂水支店	神戸市垂水区神田町3-10	078(706)2222
舞子支店	神戸市垂水区西舞子2-14-21	078(784)8171
伊川谷支店	神戸市西区池上2-21-8	078(975)0571
玉津支店	神戸市西区王塚台7-96-1	078(928)6110